

いとうしゆんや/患者中心の医療実現のために、国内外を問わず数多くの医療現場取材。「現場にこそ真実がある！」と医療改革のため、多くの問題提起をする。著書に「最強ドクターの奇跡」など

State-of-the-Art Medical Treatment in Japan by Shunya Ito

その治療法は本当に効くのか

行つて、見て、聞いた ニッポンの最先端医療 連載第十二回

伊藤隼也 医療ジャーナリスト・写真家

創傷治療

今回のテーマ

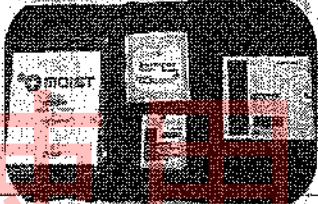
生傷が絶えない子供のころ、「ケガしたら消毒が大切！」と諭された記憶がある。問題は消毒によって生じる強烈な痛みだったが、バイ菌をやっつけるからと我慢させられた。その後、あまりしみない赤子も水鏡が含まれていることが危険視されて消え、無色でしみない消毒薬も登場した。まさに、時代は変わる。のである。

そして、最新の創傷治療（一切り傷や擦り傷などケガの治療）では、そもそも「消毒をしてはいけない」というのだ。あの我慢はいったい何のためだったのか？ 今、ケガの治療に大変革が起きているようだ。今回は、この「新しい創傷治療」（湿潤治療）の生みの親、茨城県石岡市にある石岡第一病院で傷の治療センター長を務める夏井

夏井医師を訪ねた。

ケガに消毒薬はなぜいけないのか。夏井医師によると、消毒薬は細菌の細胞膜を壊すことで細菌を殺す作用があるが、現実には細菌は消毒薬ではそれほど死なず、むしろ人間の細胞を徹底的に破壊してしまい、結果的に傷が治るのを遅らせる原因になるといいます。そもそも、ケガをして傷口から

左にひっくり返した患者。右に被覆材を覆う被覆材は吸水性、柔軟性、止血力の有無などで種類を使い分ける



細菌が侵入すると、人間の身体はマクロファージなどの免疫細胞で対応する。免疫細胞がきちんと働けば、それ以上、細菌の増殖は進まない（「化膿しない」）。あとは各種の細胞から分泌される浸出液によって破壊された組織が修復されるのを待てばよい。

傷

は消毒せずに、周辺の汚れや異物（化膿の原因）を水でよく洗い流し、傷を乾燥させないこと。つまり、傷口の湿潤状態を保つことが、傷の治りを早めるというところなのだ。消毒が百害あって一利なしなら、消毒はしないほうがいい！ ということになる。では、夏井医師の治療現場では何が行われているのか。診察室では、患者が座る椅子の脇にある、シャワーヘッドのつい

傷口（創面）の異物（泥、砂など）は十分に洗い落とす。傷口（創面）を乾燥させない。傷を消毒しない（消毒薬を傷に入れない）。傷を覆う被覆材は、日に一度交換する。被覆材の交換時に、傷の周りの皮膚をよく洗って汚れを落とす。



しない（そもそも夏井医師の診察室には、消毒薬がない）。「ケガに關しては、特に化膿したりしていないければ、初診時から治療の内容はずっと変わらない」と夏井医師は言う。

この男性は、湿潤治療を受けるのは今回が初めてだった。「初診時に説明を受け納得したので、消毒をしないことに不安はなかった」と語る。実際、痛みもなく、傷も治ってきているのだから、何を疑う必要があるのか、とでも言いただけだった。

「傷口を消毒してガーゼで保護するという従来の治療と、しっかりと洗い流したあと乾燥を防ぐため一定の吸収力のある被覆材で保護する湿潤治療では、完治の意味も違ってくるんです。前者はかさぶたができて傷が覆われれば治療終了ですが、後者は傷跡がキレイになくなって初めて、治った」と考えます。そもそもかさぶたは、湿潤治療ではできません。患部を乾燥させないことにより、組織を修復する浸出液などによる自然治癒力を最大限に引き出せる環境

を作るのが、一番大事なポイントなんです（夏井医師）。傷はかさぶたの下でも治るのだが、むしろ傷の治りは遅れるようだ。夏井医師が続ける。「かさぶたの下は浸出液が滞り、タンパク質も存在する。細菌が増殖し、傷口が化膿するための二大条件が揃っているんです。その意味でも、かさぶたはできないほうがいい。化膿を防ぐには、患部を水道水で洗い、細菌や汚れを除去するだけで十分。しつこいようですが、消毒は一切要りません」。湿潤治療は、特に大きな痛みを伴う「熱傷治療」や「やけどの治療」にも有効であり、新しい治療法を取り入れた医師達が全国で劇的な成果を上げているという。

夏井医師のホームページ（※）によると、湿潤治療を取り入れている病院は、全国で411施設（09年5月8日現在）。その大半が、個人病院か小規模病院だ。「今、創傷治療の現場では劇的な変化が起きています。ですが、いまだに湿潤治療を否定する医者は多い。大病院の医師や形成外科医ほどその傾向が強いのは、消毒薬をふんだんに使うことが習慣化してしまっていて、自分の頭で考えようとしなからいからでしょう。天動説を唱える。専門家。の天文学者が、地動説を裏付ける客観的証拠を突きつけても、最後まで自説を曲げなかったのと同じですね」（夏井医師）

今回のテーマは「カプセル内視鏡」です

今週取材した医師・病院
石岡第一病院
傷の治療センター
夏井 陸 医師
住所/茨城県石岡市
東府中1-7
電話/0299-22-5151

このほかに「新しい創傷治療」を行っている病院

上富良野町立病院
外科
住所/北海道空知郡
上富良野町大町3-2-16
電話/0167-45-3171

山本医院
外科
住所/宮城県伊具郡
丸森町字町西62-1
電話/0224-72-1351

柿田医院
小児外科
住所/東京都杉並区
下井草2-23-5
電話/03-3395-3602

安田医院
住所/石川県鹿島郡
中能登町能登部下
105-4-1
電話/0767-72-2027

譜久山病院
外科
住所/兵庫県明石市
西明石北町3-1-23
電話/078-927-1514

朝日野総合病院
外科
住所/熊本市
室園町12-10
電話/096-344-3000

取材協力/今田社

※夏井医師のHP「新しい創傷治療」(http://www.wound-treatment.jp/)にも詳しく紹介されている